

東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文・柳たかを

僕が小学1年生のころ、画家の父は我が長屋の2階四畳半を仕事場に、日本画を黙々と描いていた。筆を使う父の横に飼い猫を抱いてにじり寄り「おとーちゃん 何かお話して」と、ねだると、いつも機嫌良く童話や日本の昔話と気のむくままに話してくれた。

そんな数々のお話の中で僕にとって思い出深いものとして、(1)アリとキリギリス、(2)3匹の子豚、(3)サルカニ合戦、がある。

昭和35年頃、我が家にも待望の白黒テレビがやって来た。

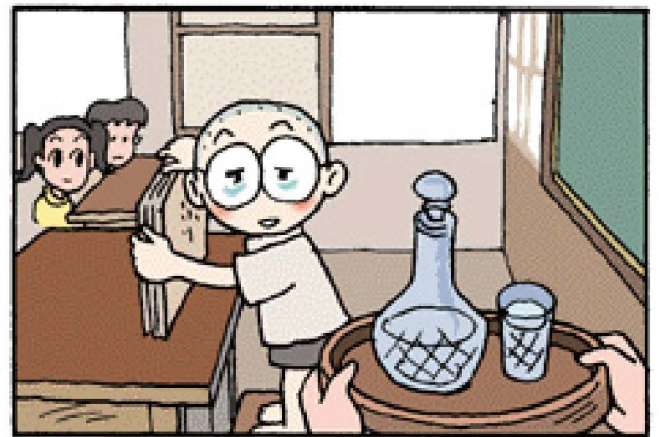
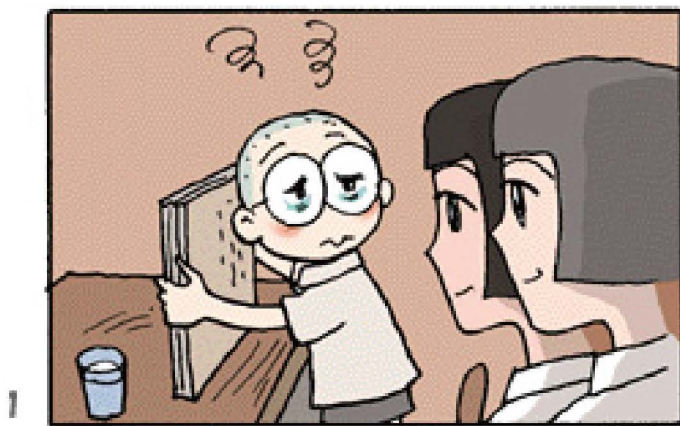
魅了されたのがウォルト・ディズニー劇場、大好きな漫画映画にどっぷりはまった。「3匹の子豚」を観て最悪の事態をイメージして準備することの大切さを教わった。

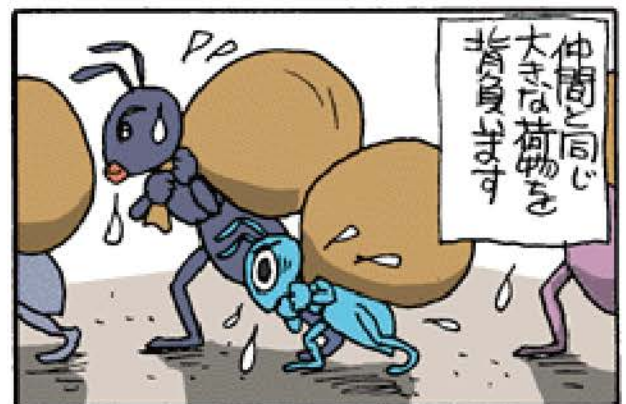
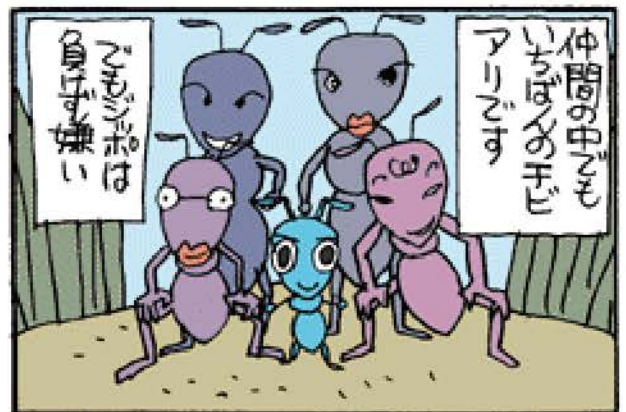
「サルカニ合戦」は、高校2年の春から秋までかかり制作した8ミリ漫画映画(9分カラー)のタイトル。美術クラブの友人知人の助けを借りて完成、秋の学園祭で上映出来たことが今も夢のよう。

「アリとキリギリス」、担任の女先生に頼まれ小学2年の冬休みを使い完成させたはじめての紙芝居、休み明けに教室でクラスの友達の前で上演した。そんな経験のおかげで人を感動させるためには、誰も見てないところでの努力の積み重ねが大切なんだと学んだように思います。

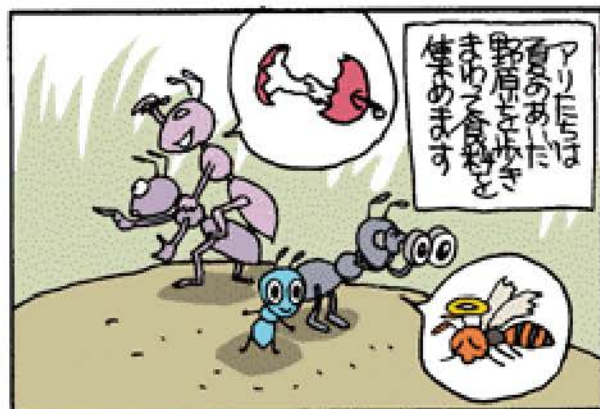


●小さいアリがじつは最強と知らされた童話





(87) 写生

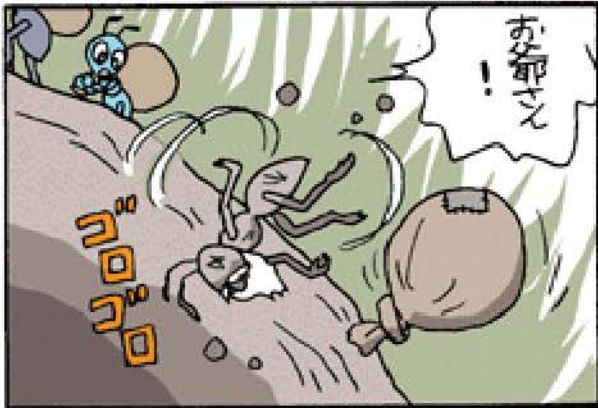


(88) 写生



やぶにらみ日記 (547)
東成区の昭利

(89) 写生



やぶにらみ日記 (548)
東成区の昭利

(90) 写生



(91) 写生

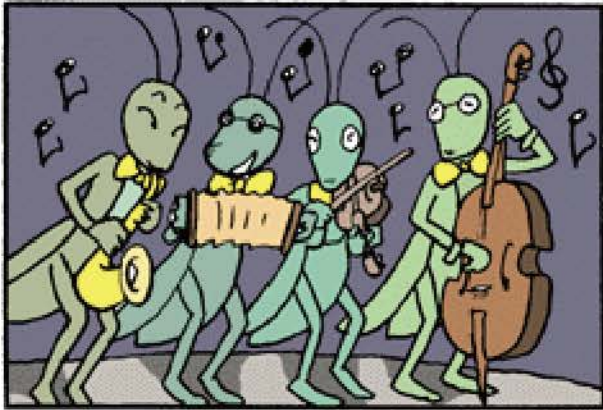


(92) 写生



やぶにらみ日記 (551)
 東成区の昭利 (93) 写生

やぶにらみ日記 (552)
 東成区の昭利 (94) 写生



やぶにらみ日記 (553)

東成区の昭利



(95) 写生

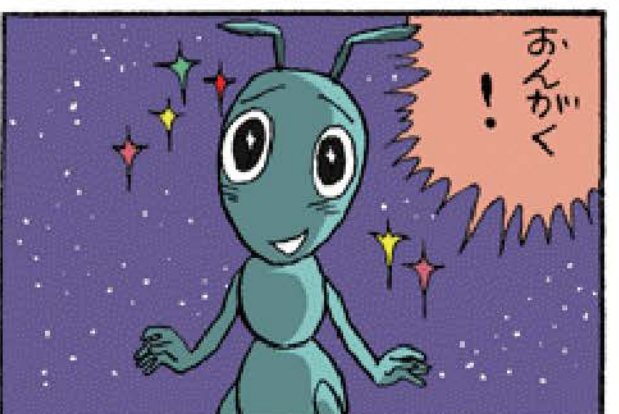


やぶにらみ日記 (554)

東成区の昭利



(96) 写生



やぶにらみ日記 (555)
東成区の昭利

(97) 写生



やぶにらみ日記 (556)
東成区の昭利

(98) 写生

